

「栗」の栽培拡大を図り、耕作放棄地の解消、農地の集約化を実現

いいじままち たぎり つきよだいら
(長野県飯島町 田切・月誉平地区)

法人化 機構の活用

地域の概要

約290haの旧村をエリアとしてプランを策定し、地区内全農家(267戸)が参加する営農組合が存在。特に戦後の開拓地であった月誉平地区(4.2ha)では、耕作条件の悪さ(小区画等の圃場・水利不足)や担い手の不足から耕作放棄地が増加していた。中間農業地域。

長野県飯島町
田切・月誉平
〈人・農地プラン基礎データ〉
作成予定地域数:6
作成済地域数:6
27年度見直し地域数:5
新規作成地域数:1



取組の成果

- 耕作放棄地であった月誉平地区を田切地区から分離し、「(一社)月誉平栗の里」に、ほぼ全ての農地を集積し、栗栽培団地として再生
- 担い手への集積率:[取組前]田切・月誉平地区0%(0ha)
[取組後]田切地区59.7%(172ha)、月誉平地区95.2%(4.0ha)

取組のポイント

栽培品目の一本化を図ることで、効率的な農地集積につながった

耕作放棄地の増加等地域の課題を解決すべく、地区営農組合や法人が中心となり地域で話し合いを重ね、栽培品目の一本化や一体的な獣害対策を推進し、町の振興作物である「栗」の栽培拡大を図るため、月誉平地区として分離したプランを作成し、「(一社)月誉平栗の里」に集積した。

集落営農の法人化による安定的な経営体制の確保

母体である田切地区は、貸付希望の農地は大規模な担い手と特定農業法人である「(株)田切農産」に集積を進め、その他の農地は地域全体の農業者で構成する集落営農組織を法人化((一社)田切の里営農組合)し、集積を進めた。

農地中間管理機構の活用

月誉平地区では振興作物である栗園の農地の集積率が高率となったことから、農地中間管理機構を活用した地域集積協力金を共同機械の導入費用等に充てることが可能となり、担い手の負担軽減を実現した。

[田切地区全体の農地利用図]



[団地栽培される栗]

